

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！ 定年延長と65歳まで働ける職場を！

乗務員を監視するな!

5/10カメラ設置中止を申し入れ

乗務員室への新たなカメラ設置に関する申し入れ(5/10)

1. カメラ設置の目的、根拠、映像を監視する基準や想定される事態、カメラの機能、映像をモニターする部署、担当者について明らかにすること。
2. カメラの映像によって乗務員の健康上の事象に対応すると説明しているが、体調不良等が発生した場合どのように対応するのか、会社の考え方を明らかにすること。
3. 乗務員の健康と安全を確保する観点から、乗務員に勤務について、拘束時間は日勤行路で9時間以内、泊行路で19時間以内、乙行路については6時間以内、仮眠時間は労働時間Aを除き6時間以上とすること。
4. 乗務員室へのカメラ設置は乗務員への監視であり、乗務員に大きなストレスと過度の緊張を与えて安全を損なうことから、カメラ設置を中止すること。

6月からカメラ設置の試行開始
動労総連合は5月10日、乗務員室への新たなカメラ設置の中止を求める申し入れをJR東日本本社に提出しました。

.....
会社は「次世代EBシステム」開発のためとして、乗務員を正面から撮影するカメラを新たに乗務員室に設置すると明らかにしました。6月より習志野運輸区1編成で試行を開始するとしています。

カメラ設置の理由について、「乗務員の健康上の理由で事象が発生している」「状況をモニターする」と説明しています。

しかし、体調の急変があった際にそれをモニターして、どう対応できるというのでしょうか。

監視ではなく行路緩和を

乗務員の表情などを常時カメラで撮影し、監視することは大きなストレスと緊張をうみます。乗務員を精神的に追い詰め、鉄道の安全を破壊するものです。

そもその問題は会社が進めてきた合理化・労働強化です。その結果、乗務員は十分な睡眠も取れない中で長時間の乗務・拘束時間を強制されています。

安全確保のために必要なのは乗務員の監視ではなく、十分な睡眠時間確保と行路緩和です。